

保育者養成校における美術展「鑑賞」授業ノート

—— 絵本と「感じ取る力」・「伝え合う言葉」の育成を目指して ——

奥 山 俊 子

はじめに

平成20年3月に幼稚園教育要領と保育所保育指針が改定され、保育の質の向上を図ることが明確に打ちだされた。当然養成校は、質の高い保育者の育成を求められる状況にあり、「保育所保育指針」改定に関する検討会座長の大場幸夫（大妻女子大学長）氏も大量の保育者を必要とした時代の要請に養成のあり方の「改定」を求められていないかとなげかけられている。

養成校が更に充実が必要な科目を「基礎技能（音楽・図工・体育等）」「保育内容」「乳児保育」としている。しかし、施設側の意見は「家族援助論」「発達心理学」「障害児保育」と違いが見られる。科目の観点から見ると双方に違いが見えるが、保育者の資質の観点から見ると共通するのが第一に「コミュニケーション能力」である。保育園の現場では、社会のニーズに応え長時間保育の子どもが増加、保育者がチームで保育にあたる現状にあり勤務体制は複雑になる一方である。子どもに対する保育者間の共通認識は必然であり、一層保育者の「コミュニケーション能力」が要求される。柳沼氏によれば、学生も実習を通して、人間関係の対応能力（コミュニケーション能力）や表現力を必要と考えている。（コミュニケーション能力60.1%、表現力〈音楽・美術〉58.3%、豊かな一般教養42.9%、問題を解決する能力30.1%）

表現力〈美術〉では、「共同制作」というグループ活動をする機会が小学校時代から多い。本学でも「共同制作」を設けている。一方、表現力〈美術〉の「鑑賞」は、レポート提出で終わっていた。最近、レポートから読み取れる学生の傾向として、積極的に感じ取ろうとする心、共感しようとする心の低下を感じていた。「自信の無さ」や「今のままで良い」という、向上しなくても良しとする自己肯定感があるように感じていた。「鑑賞」でも、専門的な知識の習得に終わらず、感じ取ろうとする力、共感しようとする積極的な心の育成、さらに、コミュニケーション能力の育成の試行を考えた。

I 美術展「鑑賞」授業のねらい

複製画でないタブローを鑑賞する機会は、直接作品にふれ、作品の持つ力、作者の意図する表現を感じ取る力を高め、子どもの作品に「共感できる感性」を高めることである。現実、入学前に美術館を訪れた経験を持つ学生は、1クラス30人の内1～2割程度であり、美術展「鑑賞」授業の必要性は大である。

1、なぜ『東北現代美術展・会員会友展』（山形美術館）なのか

過去、山形美術館の企画展を「鑑賞」授業とした際、学生の作品に触れた感動する姿に、美術展「鑑賞」授業の効果を実感し、続けられる可能性を模索した。内容、時期、金額などの諸問題が考えられた。そこで毎年6月に企画される『東北現代美術展・会員会友展』を「鑑賞」授業の場とすることになった。会は、本学の故前田春治名誉教授が発起人で、本学関係の教員や、県内の中・高教員である郷土作家が多く出品している。学生の恩師だったり、題材も見覚えのある郷土風景だったり、学生が親しみを感じる展覧会である。この親しみの感情は素直な反応を引き出す効果がある。また、『会員会友展』の利点は、作者のテーマに連続性があるなど授業担当者も把握し易い。事前説明やレポート記述時に、作品について学生の質問に答えられる確率が高い。本学の地理的条件、授業形態、学生数〈180名〉から、授業時間外に各自が美術館を訪れる能動的な学習活動である。

2、レポートの提出は必要不可欠

作品「鑑賞」の良い方法は、「感想文などの課題を与えないこと」といわれるが、レ

ポートを課題にしている。子どもの作品に共感し、共感したことを子どもにどう伝えるのか。いつも「じょうずだね」だけでは、子どもは「保育者が心から共感してくれた」と感じるだろうか。「何にどう共感したのか」具体的に子どもに伝えること、共感した内容を「ことば」に置き換えることは重要なことである。

Ⅱ 「KJ法の活用」の試み

1、平成18年度の試み（奥山担当3クラス90名）

1) 平成17年度までのレポートの傾向と問題点

- ①美術に興味を持たない。さらに文章が苦手な学生にはレポートは苦痛である。
- ②「良かった。楽しかった。」「本物みたい」「キレイ」の言葉で、感じ取ろうとする積極的な表現にならない。
- ③鑑賞した日から数日経てレポートを書くので、作品の印象が薄れ、メモや写真く許可を得ているくを見ても書けない学生がいる。

2) 平成18年の課題

展覧会の日程く6月21日～25日くからレポートを書く授業日く7月3日、6日くまで約10日あり、上記①の問題はととても大きい予想、何らかの手立てが必要である。今までは個人活動とし、造形表現の様式や素材の特徴・色・形について事前説明、「自分の共感を素直に言葉で表現する」の課題であるが、どのように言い表してよいか分からない学生がいた。特に質感の言語表現を難しく感じているように思われた。

2、KJ法の活用を考える

1) 個人活動からグループ活動へ

「コミュニケーション能力」には「言葉の表現力」が重要であるが、同世代の友に共感を理解してもらうことが学生の素直なコミュニケーションに繋がると考えた。共感したことを「言葉で表現し伝える」こと、友に「共感」を理解してもらうこと「共感の共有」が、解決方法であると考えた。

2) KJ法を使ってレポートを書く

KJ法はたくさんの意見や情報を上手に整理できる方法である。また他人の意見を

批判しない、自由な意見を歓迎するなど自分の感性を否定されないので美術が苦手な学生も仲間に入りやすい。キーワードを数人で意見交換しながら、まとめていく作業なので、記憶を辿りやすく、会話もスムーズに流れ易いと考えられる。

①事前準備

会員会友の作品に沿って鑑賞の手引きを作り、造形表現の様式や素材の特徴・色・形について説明をした。また、K J法の準備として好きな作品について理由を書くよう指示した。〈別紙1〉

②K J法を使ってレポートを書く〈90分〉

ア)好きな作品ごとにグループになる。1人の場合は、記憶していた作品や、写真記録のあるグループに加わった。

イ) K J法の説明を受け、40分のグループ作業後、20分でレポートを書く。

③授業感想（表1参照）

3、結果

①他者の意見を認め合い、共感を共有することで、自分に自信を持つことができた。

コミュニケーションがとれていた。

②スムーズに書けた学生が多く、K J法の活用は効果的だった。

③好きな作品を1つに限定したため、少人数のグループができ、全てのグループがK J法を有効に活用することは難しい。

④好きな作品1つに限定されたので作品の選択に迷いがでた。また「感じ取ろうとする力」を培うためにも複数の作品にする必要性がある。

4、結果・考察

友人と共感を共有し、コミュニケーションを図る方法として、K J法は効果的であった。「感じ取ろうとする力」や共感を「伝え合う言葉」が豊富であれば「コミュニケーション」は楽しくスムーズに流れる。専門的知識や言語表現を楽しく獲得する方法の検討の必要がある。

Ⅲ 「絵本活用」の試み

共感を「伝え合う言葉」が豊富であれば「コミュニケーション」はもっとスムーズに流れる。質感・素材などの美術用語は、言葉の知識にとどまり、会得するところまではいかない学生もいた。以前活用した『小学館あーとぶっく』は、小学校時代の鑑賞を連想、全員が興味を持ったと思われず、保育との関わりなどの視点から検討する必要がある。学校教育法幼稚園第三章第二十三条四に「日常の会話や絵本等に親しむことを通じて、言葉の正しい使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと」がある。絵本は、「絵と言葉」がそれぞれ必要最低限のギリギリの視点から吟味選択された「総合表現」であり、「言語表現の育成」教材として適切であると考えた。学生も興味をもつ本は、やはり絵本である。

1、絵本：『うんちしたのはだれよ！』の選択

1) 「新幼稚園教育要領」から抜粋

（健康）身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。（環境）身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。身近な事象や動植物に対する感動を伝え合い、共感しあうことなどを通して、自分から関わろうとする意欲を育てること。数量や文字などに関しては、日常生活の中で幼児自身の必要感に基づく体験を大切に、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われるようにすること。（言葉）生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。（表現）生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。

2) 「新保育指針」から抜粋

養護に関わるねらいに〔「排泄」指導の大切さ〕、教育に関わるねらいに〔（環境）「聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わう」などの感覚の働きを豊かにする。（表現）水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。生活の中で様々な音、色、形、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。〕がある。

3) 絵本：『うんちしたのはだれよ!』の選択

上記「新幼稚園教育要領」「新保育指針」の内容からも、五感の表現が豊かな絵本『うんちしたのはだれよ!』の選択は適合していると考ええる。

- ①「うんち」は「保育内容」では動物のうんち、「乳児保育」では赤ちゃんのうんちと授業の中で「うんち」に触れる機会がある。また、子どもも興味がある。
- ②国際アンデルセン画家賞を受賞（2006年）したヴォルフ・エールブルックの絵は写実表現で動物のうんちが「素材の特徴・色・形」に添った表現である。またうんちの「素材の特徴・色・形」の言語表現は適切であり、さらに擬音表現が豊かで、楽しい。「聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わう」など五感についての表現は、「言葉・絵」の両面からも、共に豊かな表現である。
- ③主人公のモグラの「ぬいぐるみ」が販売され、子ども達に人気のある絵本であることがわかる。「ぬいぐるみ」を導入に利用し、学生の興味を引くことができる。
- ④絵本は、日本語版（偕成社出版1993年）、英語版（イギリス1994年）、英語版（アメリカ2007年）の3種類を準備。オリジナルは1989年にドイツで出版。

日本語版『うんちしたのはだれよ!』

ヴェルナー・ホルツヴァルト（文）、ヴォルフ・エールブルック（絵）、関口裕昭（訳）

2、授業計画（奥山担当3クラス78名）

1) 「五感」の言語表現活動

各場面のうんちに関する言語表現・擬音表現を消したカラーコピーをみて、動物（ハト・ウマ・ウサギ・ヤギ・ウシ・ブタ）のうんちを「発射音（擬音）・形状・質感・大きさ・数（量）・色の表現」について五感を中心に自分の言葉で表現する。（表2・白）

* 下線部分は学生に非表示し、各自イメージした言葉で穴埋めした箇所である。

例：ウサギの表現

ラッタッタッタ! 15このまるい

まめつぶが、もぐらくんの

みみもとに はっしゃされました。

もぐらくん、ひらり ジャンプして
みを まもりました。

2) 「五感」の言語表現活動（グループ活動4～5名）

①任意のグループで各自のうんち「言語表現」をディスカッションし、適切と思われる「言語表現」を決める。

②終了したグループごとに日本語版、英語版（イギリス）、英語版（アメリカ）の3種類の絵本いずれかを読み、絵本のうんちの「言語表現」を知る。作者はこのように考えたのであり、各自の表現を大切にすることを強調して伝える。

3) 『東北現代美術展・会員会友展』（6月18日～22日）の鑑賞と課題の説明

共感した作品について、キーワードを具体的な内容で書く。（別紙2）

4) 鑑賞のレポートを書く（学生によっては約10日から2週間後）

共感した作品について（約200字）と絵本：『うんちしたのはだれよ！』について書く。

3、結果

1) 「五感」の言語表現について（表2）

- ・同じことばでも、カタカナとひらかなでは重さの感じ方が違うことに気がついた。
（べちゃ・軽い。べちゃ・重い）
- ・「ピュル！」とか「ラッタッタッタ！」と普段使わない擬音がでてきてうんちというのは汚いイメージだったけど読んでいて楽しくなる絵本だった。…トイレに行くのが楽しみになるような感じがした。
- ・それぞれの動物のうんちの音や触感など、今までに体験したことも考えたことも無かったことを考えて楽しかった。
- ・展開がおもしろく、いろんな動物が出てくるところや、色や形を食べ物や身近なものに例えるという表現の仕方が、子どもの気にいるポイントだと思う。
- ・英語版（イギリス）が One day the little Mole で始まるが、英語版（アメリカ）では When Little Mole になっている。英語版（イギリス）のソーセージが、英語版（アメリカ）ではホットドッグになっている。など翻訳が国によって表現が違う事に気

付き、異文化に興味を持った。

2) 結果 (レポート感想より)

- ・うんちの絵本を読んだのが初めてで、斬新でおもしろかった。
- ・保育の現場でも子どもに読み聞かせをしたい。子どもの姿を見てみたいと積極的に考えることができた。
- ・「うんち」は大人では下品だが、子どもにとっておもしろいもので、興味を引く対象であると理解できた。
- ・今迄見ていたうんちの絵本は、うんちをとてかわいく描いていたが、うんちをリアルに描いていておもしろかった。
- ・自分の考えた音や色、形、大きさ、量とは違っていたり、友だちの考えが楽しかった。
- ・いろいろな考えを取り入れる (受容) ことが出来ていた。
- ・話し合いをしているうちにだんだんみんな笑顔になっていた。

3) 『東北現代美術展・会員会友展』レポート

今回の作品についての学生の表現は、より具体的であり、言葉の種類も多かった。

(表3 例：大村良氏の作品)

4、結果・考察

絵本『うんちしたのはだれよ!』は、具体的な「絵」「言葉」の表現で、学生は斬新な発想に引き込まれていた。「うんち」のテーマに最初は引いていた学生も、言葉の穴埋めをしながら、「音 (擬音)・形・質感・数 (量)・色の表現」を考えていくうちに、「うんち」は子どもにとっておもしろいもので、子どもの目線になって制作されている絵本であることが理解できたようである。それぞれ相手の発想した言葉を楽しみ、コミュニケーションを楽しんでいた。絵本についての感想も3週後にもかかわらず、「音 (擬音)・形・質感・数 (量)・色の表現」の言葉が見られた。絵本に対する印象は大きかったようである。また、翻訳の違いなど異文化にも興味を示す者もいた。

鑑賞のレポートにも「形・質感・色」の言葉の表現が多かった。例年の「きれい」「ほんものみたい」などの表現に、「冬の匂い」「タイルのような」「まるみのある雲」「ふわとした雪」「美しい青い山の中にぽつんと黄色い満月」「木の模様」「絵の具のかた

まりを使って質感を出している」「太陽が生き物」などの言語表現が付加され、「感じ取ろうとする姿勢」も窺えた。親しみを感じる絵本を媒介に、友人の言葉を聞くことを通してことばが獲得されたと考える。

Ⅳ ま と め

友人と共感を共有し、コミュニケーションを図る方法として、KJ法は効果的であった。また、専門的知識の言語表現を楽しく獲得する方法として、「五感」の言語表現豊かな絵本の活用は、保育者を目指す学生に素直に受け入れられた。造形表現の視点から「絵本」を考え親しむだけでなく、同時に「言葉の表現力を育成」の視点からも、多角的に「絵本」を考えることができる。「絵本」を通して「感じ取る力」・「伝え合う言葉」の育成は可能性を秘めているといえる。

参 考 資 料

- ・「建帛社だより『土筆』平成20年9月1日」建帛社
- ・「小学校学習指導要領解説 図画工作編」文部科学省（2008年8月）
- ・学校教育法（抄）チャイルド本社（2008年）
- ・幼稚園教育要領 文部科学省（2008年3月）
- ・保育所保育指針 厚生労働省（2008年3月）
- ・「厚生労働（特集 保育所保育指針の改定について）」5月号（2008年）厚生労働省
- ・「保育サービスの質に関する調査研究（平成19年度 総括研究報告書）」（2008年3月）
- ・保育者養成校における鑑賞授業ノート ―絵本活用の試み―（東北芸術文化学会第14回大会）奥山俊子（2008年7月5日）
- ・保育者養成校における鑑賞授業ノート 郷土作家による『東北現代美術展・会員会友展』より（東北芸術文化学会第12回大会）奥山俊子（2006年7月9日）
- ・学生のニーズと授業評価の相関性 ―観点別の授業改善を目指して― 山形短期大学教育実践研究第2号 柳沼良太（2002年）

A	B	意見・感想
1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなが思っていることを聞いてよかった。意見をまとめるのが大変だった。書いていることと思っていることがあり、面白かったです。書きやすかった。 ・ 互いの意見を交換するので、共感しあい、ひとつの絵に対する感じ方、考え方の幅が広がるので良いと思った。また自分では考えもしなかった新たなことを発見でき、さらに勉強になるので良い。 ・ 自分の意見だけでなく、他の人の意見も聞いてから書く書きやすかった。また内容が似ているものをまとめることによって、いろいろな表現の仕方があると思った。他の人の意見・感想を聞いてから、もう一度絵を見てみるとまた違った見方ができるので良いと思った。 ・ たくさんの意見や感想を集められるので面白いと思う。自分と似たような感想同士でまとめて名前をつけるので後で見返したときに見やすい。自分とは違った意見もすんなりと受け入れられるような気がする。 ・ 自分の感想だけでなく、他の感想も分かっていいと思う。一人の感想より範囲も広がって書きやすいと思う。内容をまとめて、カードにしたので、要点もつかみやすくまとめやすいと思う。
1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が感じたことだけでなく、他の人が感じたことも知ることができたので新しい方法だと思いました。 ・ 全員が共有していた考えや、その人独自の考え方も知ることができると思いました。 ・ 自分の意見だけでなく、他の人の意見も聞けることが良いと思った。その意見をまとめることで整理できた。 ・ グループの人の意見がたくさん聞いてよかった。自分が気づけなかったところに気づくことができてよかった。鳥をつくるのが大変だった。グループの人と感想を共有できてよかった。 ・ 自分の意見と他の人の意見を似ているグループに分けることで、様々な組み合わせができて、レポートを書くにも、すごく書きやすかった。
1	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分以外の人の意見を聞くことによって視野が広がり、これからの表現の仕方はばも広がるので良いと思う。 ・ みんなの考え方を共有し理解することができる。 ・ 同じような多数の意見だけでなく、少数の意見も尊重するところがいいと思った。 ・ 他人と感想を聞きあうことで、わたしとは違った視点からの感想も聞くことができたので良かった。 ・ キーワードごとにまとまりを作るので、まとめるのも楽で、鳥を作るのも楽しかった。様々な他人の意見も聞くことができたし、いろいろな考え方で見ることができた。 ・ 自分が気がつかなかったことに気づくことができるのでいいと思う。
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が最初に感じたものに、他の人の意見が混ざり、より深いレポートを書くことができるのでいい。KJ法を行なっている段階で、難しくなかな鳥ができないので、レポートにいくまでが大変だった。 ・ 他人の意見も混じることで、より、絵の想像も膨らむし、ごちゃごちゃになっているのがつながった。
3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つのキーワードをいろいろなものと組み合わせることで深い意味を伝えることができるのでいいと思った。KJ法は作るのもおもしろいし、便利だと思った。組み合わせる大切さを知りました。 ・ 一見どこにもはまらなそうな感想も、キーワードにすると意外とはまって、まとめやすくなった。
4	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりの意見をみんなに伝えやすく、とても良い方法だと思った。 ・ 2人の内容があまりにも似ていて、少し物足りない気がした。

*参考 作品1：「蒼月」大村良
 作品2：「風のカタチ」小笠原辰夫
 作品3：「水に映える夏かげろ」田崎一浩
 作品4：「夏の朝」吉田輝男

表2：動物の「うんち」を想像してみよう（平成20年）

	発 射 音	形 状 (例えば)	質 感	大 き さ 数 ・ 量	色
ハ ト	ピュッ、ピュー、 ピチャン、ピチャ ポタッ	ヨーグルト、牛乳、 スライム、生クリー ム	べっとり、 タラタラした、 トロツとした	10円玉くらい1つ 大さじ1	し ろ
ウ マ	ポトポト、ポトッ ボンゴロ、 ポドンポドン、 ポロッ	泥団子、草だんご、 大福、おにぎり、 じゃがいも、 野球ボール	ばさばさ、 硬くぎっしりつまっ ている	大きくて5つ、 野球ボール 握りこぶし	おうどいろ
ウサギ	コロコロ、コロコロ ぼろぼろ、ポロポロ プリプリ	コーヒード、ビー玉、 ムギチョコ、黒豆 あずき	表面も綺麗にコー ティングされた感じ つやつやして硬い とってもカチカチ	小さくたくさん15コ	くろっばい、 黒っばい茶
ヤ ギ	ポロポロポトンポトン ゴロゴロ、 ポロポロ コロコロ、ころころ	石ころ、栗、アメ玉 肉だんご、	硬い、 ゴツゴツ もさもさ ぎゅつとつまった感じ	まばら、 ふぞろい9コ、 ゴルフボール ピンポン玉	こげちゃ
ウ シ	ベチョ、べちよ、 べちよー、ドビヤツ、 ばしゅっ、プリッツ、 ぶりぶり、ポダポダ びちゃ (べちゃ)、 ドバー	溶けたチョコレート、 溶けたアイス、 水あめ、もんじゃ焼 き、 スープカレー、 スライム、ヘドロ	ビチャビチャ、とろとろ べっとり、やっこい、 ぬめぬめした、どろり、 どろどろ液体しみこ まない	水たまりくらい	深 緑
ブ タ	ポドッ、ポドン、 プシュー、バチャッ、 ポチャ、パフッ、 グチョ	おかゆ、カレー、 パンの生地、 ピーナツクリーム	ぬっちょり、 あったか、 ぐっちゃり ふっくらベトベト	小さく1つ、 180ml	黄土色

表3：大村良作「あかり」について（平成20年）

どこがお気に入り	どんなところに共感？
月が照らす山	雪の降った地上に丸い月が優しい光を照らしている
幻想的	夜の風景できれい
全体の風景	静寂な感じの雰囲気が
色使い	夜明け前の様な感じを思わせる所
夜	暗い雰囲気だけドキレイ
あかりのついた町	あかりのついた綺麗な町
優しく照らす感じ	遠い町はまだピカピカ光っているけど、こっちの村はずかですっかり時間が流れている感じ
夜空	白い月、ぼんやりしている感じ
絵全体の雰囲気	ぱっと見た時にすぐ目につく青色の中にある風景
月	水面に月がうつっている所、木がぼんやり描かれている所
月	あまり色を使っていないのに、とても情景がうかんできた。月が印象的
月	月の光で山が照らされていて魅力的だった
月	静寂の中にたしかに存在している月
月	青の風景に明るく光る月
月	心が穏やかになった
月	青い風景の中に白い月が浮かんでいるところが
月明かり	冷たい雪にあたる月明かりの不思議な力
月のあかり	月のあかりに照らされて、山に当たって明るくなっている光の加減
満月	月に照らされている夜の風景がとてもきれい
満月	冬の夜のイメージが頭に浮かんできた。うす明るくて満月の白い光がきれいだった。
きれいな満月	ほとんど青で寂かな夜の様子を描いている中、満月だけが明るく輝いているところが
月の大きさ	月が小さいことにより、雪一面の夜により一層静けさを増す。
白い月	色使いが青と紺だけなのに深い絵に見えたところ
白い月	青だけで描かれてるが、遠近感がしっかりわかるところ
月の影	全体の青の使い方。月の白さ
白い丸	メインの色は青だったが、白い丸が1つあるだけで夜のイメージがあった。
映った月	川に映った月がとても良い、写真を見ているようだった
青一色の風景	青一色の中で光（月）で照らされている山の色。家々の電気の光、静けさ。
背景の青	早朝の空のような青くて暗い空がとてもきれい
透き通った青	美しい青い山の中にポツンと黄色い満月が、凄く目をひく作品だった
青	夜だけど黒じゃなくて青な所
青の濃淡	青の発色の綺麗さ、その中に白などが入っているところ

